

何をしてても無駄だとわかっています。

これからのことを考えていたあなたをもう大切にできることが無駄だということがわかって  
います。

とても悲しきことです。憂い目を見上げて、押空。

綺麗な鳥を見つめている。どこまでも広がる、大海原のような天界。

一人立ち上げた、夜空に浮かべたあの時。

人を信じる者こそがたとえようのない事実だとしても。

何をしてても無駄なんだと思わされ。笑顔をなくしてしまったものは、どうして。

ほら、一緒に手をつなごう。一緒に行こうよ。

——無駄なんだよ。

過去の自分にそんなことを言ってしまったのはどうやら間違いじゃない。だって、それだけ  
大切なことなんだから。

いつも一緒にいてくれたよね。いつも一緒に笑ってくれたよね。

何をしてても無駄なんだとわかってる。

だけど、諦めたくない。

あなたと手を結んだ記憶を心に残して。いつも、いつでも、いつまでも。

その記憶と共に未来を歩んでいく、それだけ切なくて泣ける、そんなあなたの温もり。

覚えているから、覚えていてほしいから、覚えているよって言ってほしいから。  
あなたの記憶の隅っこに独り立ち尽くして。

笑顔で。

笑っていますから。